

# 年頭のごあいさつ



美浦村長  
中 島 栄

新年明けましておめでとうございます。

平成二十八年の新春をお健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

本年も「人と自然が輝くまち みほ」の村政運営の先頭に立ち、執行部と村議会の総合力を生かし、長い歴史が育んできた美浦村の文化を守りながら、皆さまと共に歩んでまいりたいと存じます。

さて、昨年を振り返りますと様々な出来事がありました。近年増加傾向にある自然災害は、昨年も日本各地に大きな爪痕を残しました。特に、9月の台風17号、18号の通過による影響で、関東・東北地方で記録的な豪雨をもたらし、土砂崩れや河川の氾濫等が多発し、広い範囲で甚大な被害に見舞われました。被災地に多くのボランティアが駆け付ける中、本村でも職員を派遣し、災害支援を実施しました。

次はどのような災害がいつ起こるか、予想するのは非常に困難です。しかし、有事の際の対策を準備しておくことは可能です。本村では、皆さまが参加・体験できる予防・防災訓練等を実施していきます。防災意識を高く持ち、いざというとき速やかに行動できるよう、日頃からの備えをお願いいたします。

日本経済は、アベノミクス始動後、長引く景気の低迷から回復の兆しを見せる一方、道半ばとも言われるデフレ脱却や、経済成長と財政再建の両立に向けた第3の矢「成長戦略」を柱とした潜在成長率の底上げなど、依然として課題も残されています。

内閣府が11月に発表した7～9月期のGDP（国内総生産）によると、2期連続マインナス成長となり先行きが不透明な反面、民間消費が活発化して近年では最も高い伸び率となりました。しかし、中小企業や一般家庭における景況感が改善しているとは言いがたく、実質的な景気回復にはまだまだ時間がかかるのではないかと考えられます。

一方で、面白い話題もありました。9月のラグビーワールドカップでは、日本代表が優勝候補の南アフリカ代表から試合終了間際に劇的な逆転トライで勝利し、日本代表に注目が集まる大会になりました。11月には国産初の小型ジェット旅客機MRJが初飛行に成功。日本の技術力を結集した性能で「世界の翼」を目指して欲しいものです。全国の町村では少子高齢化が進み、深刻な状況が続いています。しかし、先人たちが守ってきた伝統文化の継承や自然環境の保全は、私たちが担っていくべきことだと思います。魅力ある地域社会を継続していくためには、住民と行政が手を携え、主体的・自立的に施策を展開していくことが不可欠であり、それが基礎自治体たる美浦村の発展につながります。美浦村が誇る霞ヶ浦をはじめとする自然豊かな景観は、人々の心を癒し安らぎを与えてくれます。この素晴らしい環境を未来に繋いでいきましょう。

村では4月に公営の電気事業を開始し、5月には美浦村村制施行60周年記念式典を皆さまのご協力をもって盛大に挙行することができました。11月には改正地域再生法に基づく本村の再生計画『人と自然が輝くまち美浦村再生計画』が国に認定されました。役場東部の国道125号線バイパス延伸に合わせ、沿道に物産館や子育て支援施設、高齢者の交流の場などを合わせた地域交流館（小さな拠点）の整備と民間商業施設の誘致を進めてまいります。人口が減少しても村民の生活が守られ、地域に住み続けられることを目指し、「美浦村に住んでみたい」「美浦村に住み続けたい」と思われるような、特色ある、魅力あふれる施策を実施していきたいと考えております。

今後も「地域主権」の確立に向けて村民の皆さま自らが村づくりに参加され、「自分たちの村は自分たちで創り守る」を念頭に、ともに発展していくよう最大限努力してまいります。住民が主役の村政へのご支援ご協力を心よりお願い申し上げますと共に、皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。

